# かみのやま 歴史・文化財さんぽ

第１８号（平成３１年４月）

# 高楯城跡

あゆみ「“虚空蔵山”は、本当に三角で、おむすびみたいだな。」

ミドリ「円錐形というのが正しいわよ。それに、右の方に丘が続いているわ。」

ふみお「上山城の説明板に書いてあったよね。応永年間初期1400 年前後に、里見満長が虚空蔵山に築いた山城で、“高楯城”または“亀ヶ岡城”とも言われたと。」

ミドリ「いろんな名前で呼ばれているけど、今は虚空蔵山と呼んでいるわね。」

あゆむ「あ、この橋も、虚空蔵山橋となっている 。」

文じい「虚空蔵山は、山頂に虚空蔵菩薩像がまつられてからそうよばれておる。でもそれは、後の時代のことじゃ。初めは神の岡で神ヶ岡、それが、亀ヶ岡へ、また、高い楯、つまり、とりでや館のような山なので高楯と呼ばれたなどといろいろに言われておる。」

ふみお「なるほど。それでここを城としたんだな。」

あゆむ「だんだん山が近づいてきたぞ。お、何か説明板がある。」

ミドリ「“東空堀と高楯城への道”だって。」

ふみお「東空堀は高楯城を守る最東端の“空堀”とある。」

あゆむ「空堀というのは？」

ふみお「水の入っていない堀ということだよね。」

ミドリ「あと、それから、山に向かう道は右の方から川を渡って来ていたとか、“沢庵堰”とかいうことも書いてあるわ。」

あゆむ「たくあんづけ？」

ふみお「いや、“沢庵づけ”はまた別の話。むかし沢庵和尚というえらい坊さんが上山に来たけれど、その沢庵の見立てによる堰、つまり、調査や計画に沢庵の指導があってつくられた用水路ということだよね。」

あゆむ「ふーん。 お、いよいよ登り口だな。また説明板があるぞ。」

ミドリ「えーと、“満長”という字があるということは、さっき話していたことね。 それから、この山城は、…えーと…？」

ふみお「ぼくが続けて読もう。 置賜地方を領した伊達氏と領域を接する境目の城であったため、攻防が繰り返されている。そして、そのあとは…、うーん、どうやら上山城の説明板に書いてあったのと同じことだな。」

あゆむ「ああ、あのややこしい話ね。」

ミドリ「そう、攻められたり、取り返したりだったのよね。」

ふみお「伊達稙宗が高楯城に侵攻、つまり攻めてきた。そして、伊達軍の小梁川親朝がおさめた。 ところがまもなく和睦して返された。 その後、再び稙宗が侵入して支配。しかし、天文 4 年(1535)満長の子孫の武衛義忠が奪回、つまり取り返した。」

あゆむ「そして、上山城を新しくつくったんだよね。」

ミドリ「そうだったわね。結局、伊達軍は 2 度上山を攻めてきておさめたわけね。あら、でもそのあとにまた何か書いてある。」

『中世の城郭 高楯城』より

ふみお「うん。その後の慶長5年(1600)に、上杉勢が山形を攻めた関ヶ原出羽合戦とある。」

ミドリ「え？　上杉ということは？」

文じい「ふむ、米沢では、伊達が宮城に移されて、代わりに、上杉が入ってきた。」

ミドリ「あ、そう。でも、関ヶ原の戦いというのは、遠いよそのことだったんじゃない。」

文じい「関ヶ原の戦いは、豊臣方と徳川方の戦いじゃったが、上杉は豊臣方、山形の最上は徳川方。上山は最上と組していた。それで、上杉軍は分かれて上山にも攻めてきた。」

ふみお「上山勢は、高楯城により、山形勢の中で唯一勝利を得たと書いてある。」

あゆむ「上山が勝ったのか。それにしても戦いつづきだったんだな。そして、その後は？」

文じい「その後は、徳川の世になり、大きな出来事も無くなり、この高楯城も役目を終えた。」

ミドリ「200年間ごくろうさまでした、高楯城！それじゃ、登りましょう！」

文じい「おっと待った。今日は右の方から登る。」

あゆむ「えっ、どうして？」

文じい「実は、案内図にあるように、当時は、右から登って、北平、それに、白土平、そして、頂上の主郭へというルートじゃった。」

あゆむ「わかった。よし行こう！」

ミドリ「あ、北平4号空堀という案内の板が見えてきた。でも、だいぶ古くなってきたわね。」

ふみお「案内図を見ると、北平も白土平も主郭も何重にも空堀と、“腰曲輪”とか“帯曲輪”が囲んでいる。それで、“曲輪“というのは？」

文じい「領主の住まいや武者たちの陣となるところで、平らなところや、堀を掘った時の土石なども利用して築いた平地だ。」

あゆむ「矢になりそうな竹がいっぱい出ているぞ。」

ミドリ「“矢竹”と言うんでしょう。　それで、ここが北平ね。ここって、来るときに見た山の右側の丘じゃない？」

ふみお「そうなるね。そして、ここで、左に下る道と、真っ直ぐ登っていく道が分かれるけど、下り道の方は現在の参道だよね。白土平は真っ直ぐという案内の板がある。」

文じい「この右の平地が白土平、その先に、“タコツボ”という竪穴もある。ふう、きついの！」

あゆむ「さあ、頂上だ！　おお、ながめがいいぞ！」

ミドリ「なるほど、神社があって、鐘もある。そして、下のまちや、敵方の南の方も見渡せる。この山は本当に大事なところだったのね。」

ふみお「あれ、ここに池があるけど、水はどこからくるのかな。」

文じい「それが不思議なんじゃ。“弁慶水”とよばれておる。下に湧き水や川もあるが、水は重要であった。」

あゆむ「よし、鐘をならすぞ！下まで届くかな。」

文じい「いいひびきじゃ。どれ、それでは帰るとしよう。今度は、現在の参道を下る。途中に、大杉や“でわのはごろもななかまど”もある。　見ながら下って行こう。」

発行：　上山市教育委員会生涯学習課文化財・文化芸術係　　電話　023-672-1111（内線 314）